

一足早いクリスマスのお祝いを申し上げます。

同時に、この機会に、南山学園に属するすべての構成員の皆さん、そして、その教育活動に、直接間接にご協力くださっているすべての皆さんに、日頃の感謝を申し上げます。また、コロナ禍が収束しない中、学生、生徒、児童、園児たちの安全を第一に、工夫を凝らしてこの一年を乗り越えてくださり本当に有難うございました。

皆さん覚えておられると思いますが、NGO「ペシャワール会」の医師であった中村哲さんは2019年12月4日アフガニスタンで武装集団に銃撃されて亡くなりました。73歳でした。中村哲さんは、2000年には、南山高等・中学校 男子部に講演で来られたこともあり、その経緯は男子部元教諭の神言会会員によって「南山アーカイブズニュース」(第13号、2020年)で紹介されています。今年2022年にはその活動を描いたドキュメンタリー映画「荒野に希望の灯をともし」も製作されています。アフガニスタンの人たちのために善意で献身的に活動された方があのような形で亡くなったことに、大きな悲しみと、また、不条理を感じます。しかし、その死で全てが終わってしまったのではないということにも、いま、気付かされています。いろいろな形で、その意志が引き継がれているからです。中村哲さんが生前モットーとしておられたことが二つあったそうです。一つは「誰かの、何かの役に立ちたい」ということ、もう一つは「裏切られても裏切り返さない」ということです。言葉としては簡単ですが、特に二つ目のモットーは、実践するのが非常に困難であることをわたしたちは、現在の世界のありさまを前にして実感しています。しかし、困難であることと不可能であることは異なる、ということも肝に銘じたいと思います。

世界がどのような悲惨な状況であっても、わたしたちは毎年クリスマスを祝います。それは、どんな困難の中でも「希望の灯を消さない」ためでもあります。12月25日のミサで朗読されるヨハネ福音書はこうはじまります。

「初めにことばがあった。ことばは神と共にあった。ことばは神であった・・・

ことばのうちにいのちがあった。いのちは人間を照らす光であった」。

そのあと、突然、現在形が登場します-「その光は暗闇の中で輝いている」。

慰め深い「現在形」。それは、わたしたちを励まし、行動へと促す「現在形」でもあります。

皆さんの毎日のお働きと隠れたご苦勞によって、このキリストの光は、今ここに、引き継がれています。南山学園につながり、支えてくださるすべての皆さんに改めて感謝し、そして、世界の本当の平和を願いながら、ともにクリスマスを祝いましょう。メリークリスマス！

Hideaki Ichii, Svd.

南山学園理事長 市瀬 英昭



法人本部 馬小屋人形